

竹(たけ)檻(おり)によるイノシシ捕獲

～竹でつくる檻は、お金をかけずに捕獲効率の良いわなである～

河村直紀（西三河農林水産事務所農業改良普及課岡崎駐在室）

【平成27年8月14日掲載】

【要約】

竹檻は、設置初年度はイノシシに警戒されにくく捕獲しやすい。成獣を取り逃がすと警戒心が強まるため、捕獲実績は低下する傾向にあるが（竹檻1基当たり設置1年目は11.5～13.3頭/年、設置1年以上4.5～5.2頭/年）、一般的な鉄檻より効率的である（鉄檻1基当たり2～3頭/年）。

1 はじめに

岡崎市では、中山間集落を中心にイノシシによる農業被害があり、わな捕獲による駆除が取り組まれている。

ここでは岡崎猟友会の成瀬勇夫氏（農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー：農林水産省登録、全国竹檻普及グループ代表）が開発した孟宗竹で作った檻について紹介する。

2 調査方法

成瀬氏が管理している竹檻について、捕獲実績を聞き取り調査するとともに、赤外線センサーカメラを用いて一部の竹檻周辺のイノシシの動態調査を行った。



成瀬氏と竹檻

3 結果

岡崎市に設置した竹檻（年度途中で設置した檻は除外）の合計年間捕獲頭数は、平成25年度は149頭、平成26年度は138頭であった（表1）。

成・幼獣比率は、25年度は幼獣の割合が多くが、26年度は成獣の割合が多かった。なお成・幼獣の判断基準は、25年度については体表の縞模様有無ではなく、体重20kg前後までを幼獣とする成瀬氏独自の判断で、26年度は縞模様の有無で行った。

1年以上の長期に渡って設置中の竹檻1基当たりの捕獲実績（表2）は、25年度は捕獲回数2.6回、捕獲頭数4.5頭、26年度は3.6回、年間捕獲頭数は5.2頭であった。なお、地域の一般的な鉄檻による捕獲平均は、檻

表1 岡崎市に設置した竹檻の年間捕獲実績

	平成25年度	平成26年度
竹檻設置数	25基	24基
捕獲回数	82回	93回
捕獲頭数	149頭	138頭
うち成獣	55頭	73頭
うち幼獣	94頭	65頭

4月～翌2月末集計。

当年の途中に新規設置した檻の実績は計算から除外。

表2 1年以上の長期に渡って設置中の竹檻1基当たりの捕獲実績

	平成25年度	平成26年度
年間捕獲回数	2.6回	3.6回
年間捕獲頭数	4.5頭	5.2頭
うち成獣	1.9頭	2.9頭
うち幼獣	2.7頭	2.3頭

設置1年以内の罠の檻の実績は計算から除外。

1基当たり年2～3頭である（聞き取り結果）

今まで檻を設置していなかった場所へ新規に設置した竹檻1基当たりの捕獲実績（表3）は、平成25年度が捕獲回数7回、捕獲頭数13.3頭であった。26年度は捕獲回数7回、捕獲頭数11.5頭であった。表2の1年以上の長期に渡って設置中の竹檻捕獲実績と比較すると、約2～2.5倍の捕獲効率である。

今回調査した24基の竹檻の1基あたりの年間捕獲回数は0から9回と様々であった。内訳は図1に示したとおり、年間捕獲回数1回が7基と最も多く、年間9回は1基のみであった。

数年以上同一場所に継続設置している竹檻にセンサーカメラを設置し、竹檻近くに現れるイノシシの動態を観察した。この結果、わなの周囲には来るが、わな内部にはエサがあっても入り込んで食べることがないなど、竹檻に対しても警戒する様子が見られた。

4 考察

竹檻は、新規に設置した場所では捕獲効率が良い（長期設置檻の約2～2.5倍）。理由として、自然素材でつくる竹檻は周囲と違和感が少なくイノシシに警戒心を起こさせにくいと考えられ、初めのうちは捕獲しやすいと思われる。

しかし、数年以上同一場所に継続設置している竹檻にセンサーカメラを設置しイノシシの動態映像を確認した結果、竹檻においても鉄檻同様にイノシシが警戒心を持っていることが明らかと思われた。これら警戒心の強いイノシシは、竹檻において過去に取り逃がし、竹檻も危険なわなであることを学習した個体と思われる。一般的な鉄檻の箱わなによる捕獲と同じく、取り逃がし個体をできる限り少なくすることが、竹檻での捕獲においても重要と思われる。

成瀬勇夫氏作成の捕獲マニュアル『竹檻によるイノシシ捕獲法』が、愛知県農林水産部農業振興課ホームページにて、竹檻の模式図とともに掲載されているので、興味のある方はそちらも参照されたい（<http://www.pref.aichi.jp/nogyo-shinko/noson/choujuu/>）。

表3 新規に設置した竹檻1基当たりの捕獲実績

	平成25年度	平成26年度
年間捕獲回数	7回	7回
年間捕獲頭数	13.3頭	11.5頭
うち成獣	3.8頭	4.5頭
うち幼獣	9.5頭	7頭

4月～翌2月末集計。

26年度：2地点平均値、25年度：4地点平均値。

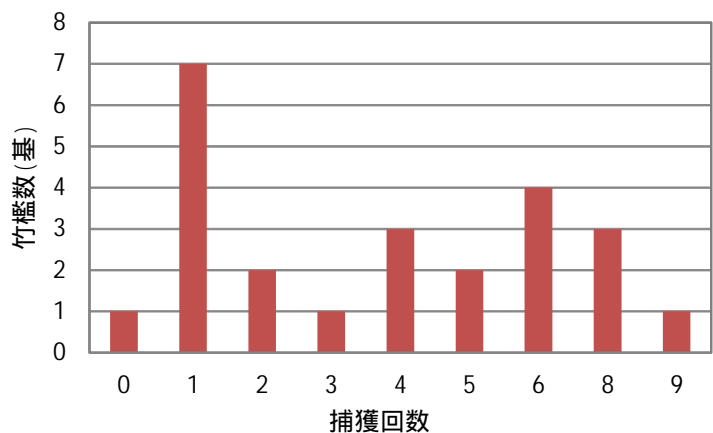


図1 年間捕獲回数別の竹檻数(平成26年度)